

①上からマダイ、ヘダイ、クロダイ。同じタイ科の仲間でも少しずつ違います②イルカ水路にいる若いヘダイ。腹びれや尻びれが黄色みがかれているのが特徴です③ヘダイを展示しているかごしま水族館の錦江湾水槽



日本近海に「タイ」と名前の付く魚は約400種います。このうち、「魚の王様」である高級魚のマダイと同じスズキ目タイ科に属しているのは14種に過ぎません。残りは名ばかりの「あやかりタイ」なのです。

タイ科の魚はマダイの他、釣り

人に人気があるクロダイ、キダイやヘダイなどがいます。ヘダイは内湾や沿岸の岩礁にすみ、鹿児島県で50センチほどに成長し、銀白色の体に、黄褐色の縦じま模様があります。口先が丸い愛嬌のある顔つきで、平べったい体形は「平鯛」という名の由来の一つと考えられています。

ヘダイ 隠れた魅力の実力派

かごしま水族館のイルカ水路に朝の掃除で潜ると、ヘダイが口先で海底をつつき、エサとなるゴカイや貝などを探す姿を見かけます。頭全体で大きく掘り返すこともあります。警戒心は強くなく、近づいてもあまり逃げません。光を反射してキラキラ輝きながら泳ぎ、鮮やかな赤色のマダイとは違う美しさです。

味はあつさりとしてクセがなく、マ

ダイに負けないおいしさです。隠れた魅力を持つ実力派なのです。

ヘダイはかごしま水族館4階の錦江湾水槽で観察できます。マダイとクロダイも一緒に展示しているので、じっくりと違いを見極めてみてはいかがでしょうか。

(海獣展示係飼育員・伊藤大介)